

# 児童施設 厳しい現実



正座して食卓する児童養護施設の幼児(名古屋市長和区)

## タイガーマスク現象 現場訪ねる

プロレス漫画「タイガーマスク」の主人公を名乗る人物からのプレゼントでスポットライトがあつた児童養護施設。戦後「孤児院」としてスタートした子供のための福祉施設だが、入所児童数は少子高齢化が進んだ今も増加傾向にある。かつては戦禍による親との死別や貧困が入所の理由だったが、現在は親からの虐待から身を守るために施設に入る子供が半数を占める。

名古屋市長和区の「名広愛児園」にも1月12日、伊達直人からプレゼントが届いた。現金12万円。

## 夕食用意、自分たちで

「子供たちを笑顔にするために使ってください」というメッセージが添えられていた。この施設では3歳から18歳までの59人が共同生活を送っている。名古屋市と国からの措置費計1億7000万円で子供たちの生活費や学費をまかない、スタッフ22人の給料までやりくりする。財務状況は厳しい。施設長の渡部隆一さん(43)は「これでは十分な教材、遊具をそろえることは難しい」と話す。伊達直人からの12万円は全員で行く旅行のために使うという。

現行制度では、未就学児4人に対して1人、小

## やりくり苦労、人手不足

学生以上の子どもには6人に1人のスタッフが充てられる。ただ「子供のご飯を炊き夕食を用意する」という作業は人手が足りない。「これでも自立するためが現状。さらに「虐待を受けた子供など、より手厚く対応しなければならぬ」という規則はない。スタッフが増えていない。スタッフが足りない」という現状が、まさに現状の現実である。

厚生労働省の統計によればケアも改善できると、児童養護施設の入所者は1997年、子供1万人に9・1人の割合だったが、2007年頃には12・4人に拡大。10年間で見守ってきた渡部さんは「彼女のように特技を持ち、自信を深められるようになりたい」。匿名の寄付で注目を集めた児童養護施設。渡部さんは「ひとりの暮らしを終わらせることは意味がない。全国的な支援体制の充実につながる」と話している。

中高生には個室が与えられ、部活やアルバイトで生活費を終えた後、自分たちで名広愛児園を2月末で卒業する。好きな音楽で生きたいことを目標に進路はボーカルの学校を志す。冬休みは朝からアストフード店、夕方から夜遅くまでレストランでアルバイトをこなし、自立に備えた。これまで自分で蓄えたお金は250万円。学費やアパートの家賃に充てる予定だ。長年、親代わりとして見守ってきた渡部さんは「彼女のように特技を持ち、自信を深められるようになりたい」。匿名の寄付で注目を集めた児童養護施設。渡部さんは「ひとりの暮らしを終わらせることは意味がない。全国的な支援体制の充実につながる」と話している。